

- 会員番号 FE-0401
- 氏名 小島康平
- 専門分野 航空宇宙 (機械系)
- 保有資格 -



FE 受験にて、①試験までの準備、②試験会場での状況 という観点で記載致します。今後受験される方に、少しでもご参考になれば幸いです。

### ① 試験までの準備

- ・ 機械系ということもあり、受験は「mechanical」を選択しました。
- ・ 参考書は「FE Review Manual: Rapid Preparation for the Fundamentals of Engineering Exam (F E Review Manual)」を amazon で購入しました。この参考書は数学、工学、倫理等の約 50 章から成り立っています。
- ・ 受験に必要な章だけに特化して、参考書の勉強をしました (biology(4 章分) , chemistry(3 章分) は未着手)。参考書は非常に厚く、各章または各 topic に分割 (表紙と本文を完全に分離) して、扱いやすい状態にしました。演習問題は基本的に全部解き、1 回目でかろうじて解けたもの、全くわからなかったものだけを 2 回目も解くというようにしました。参考書にある、sample examination は時間の都合上、手が回らず、未着手。
- ・ サイト上にある「reference handbook」をプリントアウトし、F E 試験のライブを意識し、「reference handbook」だけを使って演習を進めました。また、「reference handbook」のどこ項目にどのような数式の記載があるかを習熟しました。個人的には、この習熟が試験本番で非常に活きたと思っています。
- ・ 電卓は、CASIO fx-115ES PLUS を購入しました。慣れるために、この電卓を常に使用しました。
- ・ 試験が近づくと、習熟度合いに不安を覚えるようになり、最後の数日は睡眠時間を削り、とにかく演習をこなしました。受験当日は、電車の中や試験会場での待ち時間において、参考書/ハンドブックを開き、ひたすら復習していました。

### ② 試験会場での状況

- ・ 初めに電卓等の確認が行われ、座席に私物として持ち込んだのは電卓のみだったと思います (時計も N G だったはず)。また、会場側で、プラスチックのボード (B 4 か A 3 位?) とホワイトボードマーカのようなものを筆記用具として渡されました。筆記用具は予め余分にもらっておくことはできませんでした。ボードは全て書ききってから、挙手し、追加分をもらうという状況でした。
- ・ 試験時間は 5 時間 20 分で、間に 25 分の休憩が取れます。休憩前の問題を休憩後に回答することはできません。試験時間の残りは、ディスプレイの端に表示される残り時間を目安に回答をすることになります。休憩時間中は、基本的に何をしてもよく、食事・トイレのみならず、参考書を見ることも可能です。休憩時間の 25 分は目安であり、20 分と短くしてもよい一方、たとえば 30 分とって試験時間を 5 分犠牲して、勉強してきた内容の復習にあてることも可能です (休憩の時間は自由度があります)。自分の場合は、

休憩を 30 分とり、前半で出題されなかった問題の復習に充てました。

- **ディスプレイは、左半分がハンドブック、右半分が問題**という形式でした。未回答の問題は問題の flag にチェックが入らず、未回答の問題を見極めやすいようになっています。ハンドブックには検索機能があり、問題に必要なと思われる数式のキーワードで検索することで、回答できた問題もありました。ハンドブックの習熟が、ハンドブックでの検索に活きました。